

お茶のまち掛川がミュージアムに変わる30日間



かけがわ 茶エンナーレ

アートがいきづく 茶産地へ



10.21 Sat.-11.19 Sun.

「かけがわ茶エンナーレ記者発表会」資料

日時：平成29年4月19日

会場：大日本報徳社

かけがわ茶エンナーレ実行委員会

アートが いきづく 茶産地へ

お茶のまち掛川がミュージアムに変わる30日間

かけがわ茶エンナーレは、「アート×茶・茶産地」の視点から、掛川市の魅力を再発見する芸術祭です。

日本有数の茶産地、静岡県掛川市。

美しい茶畑が広がり、はらかな歴史と豊かな文化が息づくこの地が、「かけがわ茶エンナーレ」の舞台です。

「かけがわ茶エンナーレ」では、掛川市が世界に誇る「茶・茶文化」と「アート」を融合させたアートプロジェクト。アーティストと市民、地域がひとつになり、アート作品の展示やパフォーマンスなどを実施します。

「アート×茶・茶産地」の視点から、掛川市を見つめ直すことで、いままで見たことのない風景や気づかなかった魅力を発信します。

名称	かけがわ茶エンナーレ
テーマ	アートが いきづく 茶産地へ
主催	かけがわ茶エンナーレ実行委員会
事務局	掛川市文化振興課
事業年度	平成27年4月～平成30年3月 (3カ年・千日プロジェクト・準備期間を含む)
開催日	平成29年10月21日(土)～11月19日(日) 30日間
目標集客人数	30万人
事業ミッション	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民と作家と茶産地との積極的な交流 ● お茶のある風景・お茶のある生活の再発見 ● お茶が持つ細やかなホスピタリティーの再認識 ● アートのチカラで新しいライフスタイルの創造
会長	日比野秀男
実行委員長	大木敏行
総合プロデューサー	山口裕美
助成	文化庁・一般財団法人地域創造
特別協賛	資生堂・資生堂アートハウス・資生堂企業資料館

将来的に持続できる掛川に伝わった歴史と文化の継承

アートは置かれた場所によって、その表情を様々に変化させます。ある時は光り輝き、また別のときには大きく反発します。そうしたことから地域の歴史や文化を見直すのにとっても良い存在です。見慣れた景色も新しいアートという異質なものが加わることによって見つめなおすことが出来ます。

各地で開催されているトリエンナーレやビエンナーレ形式の展示は新しいアートそのものを見るということよりは、置かれた場所を見つめなおすということが一番の目的でしょう。それによって地域が活性化し、交流人口が増えるという当面の目的が各地で達成され、評価されてきています。

「かがわ茶エンナーレ」もそのような各地で開催されている現代アートの活用と大きく異なることはありません。しかしながらもっと大きな目的は掛川に伝わった歴史と文化の大切さが将来を担う若い人たちに強く植えつけられることにあると言えるでしょう。一時的な交流人口の増加だけでなく、将来的に持続できる文化の継承を「かがわ茶エンナーレ」が果たしてくれることを願っています。



かがわ茶エンナーレ実行委員会
会長 日比野秀男

あらゆる年代の方が楽しめる、未来志向の地域芸術祭に

「かがわ茶エンナーレ」は、掛川市内の文化施設や茶畑で、現代アーティストの作品展示などアート活動を展開する地域芸術祭です。本番開催の10月21日～30日間、お茶のあるまち掛川がミュージアムに変わります。

「かがわ茶エンナーレ」の狙いは、日常生活の中で市民の皆様が価値を忘れかけている掛川の景観や文化にアートを組み入れることで、それらに注目し、魅力を再発見する機会にしたいと思っています。市外の方へのアピールも大切ですが、それ以上に地元の良さを感じて欲しいと思います。ただのイベントとして終わらせることなく、茶エンナーレを通して感じたことや気運が市民の皆様の意識の中に息づいてくれれば成功だと思っています。最終的には芸術祭がなくても日常の中にアートが溶け込み、新しい豊かなライフスタイルを創造することが理想です。

茶エンナーレでは市民の皆さんが主体となったプログラムも募集しています。常識にとらわれないアイデアを期待しています。茶畑や茶工場といった掛川の強みをさらに活かすパフォーマンスを見せて欲しいと思います。3次募集ではまだまだ多くの枠を設けています。掛川が好きという思いを活かすチャンスととらえ、ぜひ気軽に参加していただければと思います。茶エンナーレは、初めての開催なので市民の皆様と一緒に考え、あらゆる年代の方が楽しめる、未来志向の地域芸術祭にしたいと思っています。本番開催まで約半年となりましたが、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



かがわ茶エンナーレ実行委員会
実行委員長 大木敏行

山口 裕美（やまぐち ゆみ）

アートプロデューサー・かけがわ茶エンナーレ総合プロデューサー

アートプロデューサー。孤軍奮闘する日本の現代アートにおいて常にアーティストサイドに立つ活動から「現代アートのチアリーダー」の異名を持つ。eAT金沢99総合プロデューサー、ARS ELECTRONICA2004ネットビジョン審査員、NPO法人芸術振興市民の会理事長、玉川大学観光学部・女子美術大学芸術学部非常勤講師。著書に「芸術のグランドデザイン」（弘文堂）「観光アート」（光文社新書）など多数。



かけがわ茶エンナーレ— 喫茶去への想い —

3年前、掛川市から「かけがわ茶エンナーレの開催が決定し、については、掛川との関係が深い山口さんに総合プロデューサーをぜひお願いしたい」とのお話をいただきました。正直なところ、アートによる地域活性化には、必ずしもメリットだけとは言い難い難しさがあり、軽々な返事はできませんでした。けれども、お引き受けしたのは、掛川の現代美術研究会と一緒に実施してきた「現代アートプロジェクト」を通じて、私自身が掛川ファンになっていたからです。

「かけがわ茶エンナーレ」のキーワードとなる「喫茶去」の逸話を紹介します。唐の時代の禅宗の和尚、趙州和尚の逸話から来ています。

趙州和尚：あなたはこの地にいらしたのは初めてですか？

お客様：はい、初めてです。

趙州和尚：では、お茶を召し上がってください。

次の時、また別の方に対して、

趙州和尚：あなたはこの地に来たことはありますか？

お客様：はい、あります。

趙州和尚：では、お茶を召し上がれ。

それを聞いていた弟子が、趙州和尚に質問しました。

弟子：和尚様は、初めて来た人にも再度訪問して来た人にも、同じように対応されました。それはどういう理由からですか？

趙州和尚：そうですね。では、まずお茶を一杯お飲みなさい。

この話から、弟子はハッと気づきました。趙州和尚が、まず人に対して分け隔てなく接し、どの方にも公平なお茶のおもてなしをしたのだということ。さらに、お茶をお出しすることで、リラックスさせる気遣いをしたのだということ。また、一杯のお茶でさえ、もてなす心があれば、立派なおもてなしになるということ。「喫茶去」にはそういう意味があります。

掛川では江戸時代の東海道の人々の往来に対しておもてなしを、報徳の思想のもと、経済と道徳のバランスを取りながらの暮らしを、提唱、実践してきました。掛川城や大日本報徳社大講堂をはじめとする時間層のある建造物群は、改めて、掛川の皆さんに見ていただきたい宝物です。

この秋、アーティスト達が掛川にやってきます。また、作品を見るために、初めて掛川を訪れる方もいらっしゃいます。その時、美味しい掛川茶でおもてなしをしたいと考えています。一杯のお茶が、お客様をリフレッシュさせ、リラックスさせ、アートの素晴らしさを堪能する大きな助けになると思います。アート作品の傍らに、美味しいお茶がある、というのが「かけがわ茶エンナーレ」の大きなテーマなのです。

「かけがわ茶エンナーレ」の特徴を3つ紹介いたします。1つ目は、海外のアーティストは招待せず、日本人アーティストの実力者を集めました。掛川市や周辺地域の出身者で、首都圏はもちろん世界で頑張っているアーティストに声をかけました。2つ目は、掛川市内のいろいろな場所で、関連イベントが開催されます。掛川市民の皆さんの積極的な参加と体験への挑戦をお願いします。また、3つ目として地元の産業であるお茶と現代アートを繋ぐという初めての方法を試みます。良く知っている掛川市をもう一度、発見していただきます。

魅力溢れる掛川の歴史や建造物と地域が織りなす特色ある風景を、美味しい掛川茶を飲みながら、アーティスト達が掛川のために制作する作品と共にゆったりと観ていただけたらと思います。「かけがわ茶エンナーレ2017」にぜひお越しください。

かけがわ茶エンナーレの事業構成

かけがわ茶エンナーレは、「アートセレクション」「みんなのミュージアム」「茶エンナーレイベント」「タイアップ事業」の4つの事業で構成されます。

この他に、10月21日の開催までに、気運醸成を主たる目的とした会期前イベントの開催も計画しています。また、掛川市の他のイベントとの連動も図っていく予定です。

各事業の詳細については、事業の進捗にあわせて、プレスリリース等で発信いたします。

事業名	事業概要
<p data-bbox="134 710 434 752">アートセレクション</p> 	<p data-bbox="546 710 962 752">掛川まちなか 現代アート展</p> <p data-bbox="546 770 1275 861">山口裕美総合プロデューサーがキャスティングする作家が、「喫茶去」の精神をふまえて、絵画、インスタレーション、写真、映像などの 作品を創作・展示します。</p> <p data-bbox="546 880 1279 973">また作家との交流イベントを通じて、来場者・市民との交流をすすめていきます。会場は、掛川市中心市街地の歴史的建築物、美術館、ストリートなどを活用します。</p> <p data-bbox="546 992 1265 1056">※アートセレクションの参加アーティスト20名+1グループのプロフィールについては本プレスリリースに記載しております。</p>
<p data-bbox="134 1091 486 1133">みんなのミュージアム</p> 	<p data-bbox="546 1091 1008 1133">掛川まるとアートプロジェクト</p> <p data-bbox="546 1152 1279 1216">市民有志、市民団体、地元ゆかりの作家、地域ディレクターが主体となり、掛川市全域を舞台に、地域発のアート展を実施します。</p> <p data-bbox="546 1234 1269 1299">また、各エリアでワークショップ・トークセッションなど、来場者・市民との交流イベントも実施します。</p> <p data-bbox="546 1317 1283 1382">※現在、第3次エントリー募集中(5/8締切)です。7月中旬には詳細を発表する予定です。</p>
<p data-bbox="134 1404 482 1446">茶エンナーレイベント</p> 	<p data-bbox="546 1404 1039 1446">「交流」と「体験」のアートイベント</p> <p data-bbox="546 1464 1279 1529">オープニングイベント・ファイナルイベントなどのシンボルイベント、各エリアをつなげる回遊イベント、常設・定期イベントを実施します。</p> <p data-bbox="546 1547 1270 1612">30日間の開催期間を通じて、茶エンナーレを活性化させるとともに、事業全体に統一感をもたせて、集客につなげていきます。</p> <p data-bbox="546 1630 1279 1694">※現在、イベントの企画立案をすすめています。詳細が決定次第、順次、発表いたします。</p>
<p data-bbox="134 1717 386 1759">タイアップ事業</p> 	<p data-bbox="546 1717 979 1759">協賛イベント・タイアップ商品</p> <p data-bbox="546 1777 1275 1871">かけがわ茶エンナーレの事業を活用したい企業や団体が協賛型で参画していただき、主体となって商品開発やサービス開発を行ない、商品やサービスを提供します。</p> <p data-bbox="546 1889 1253 1953">※現在、協賛企業・団体を募集しています。詳細はかけがわ茶エンナーレ実行委員会事務局までお問い合わせください。</p>

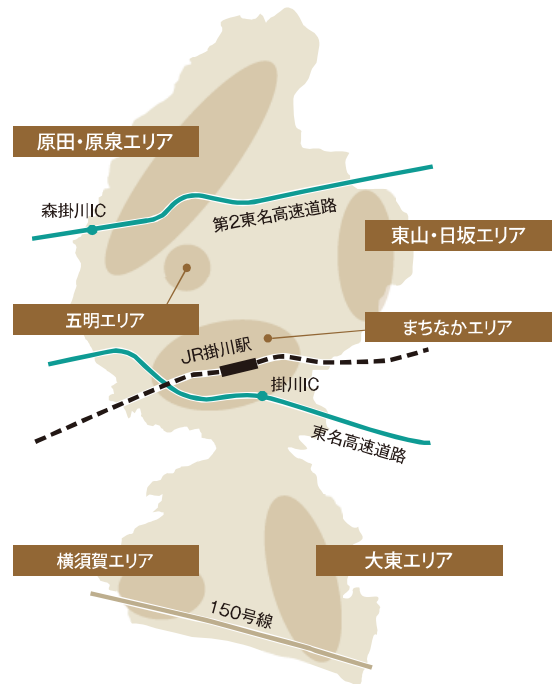
かけがわ茶エンナーレの会場は 掛川市全域。

お茶のまち掛川が まるごとミュージアムに変わります。

かけがわ茶エンナーレは、特色ある6つのエリアを中心に、掛川市全域が会場となります。

アートセレクションは、掛川市街地を中心としたエリアで展開します。

みんなのミュージアムでは、掛川市全域で地域の特色を活かしたアートプログラムが展開されます。



アートセレクション

エリア	地域概要
まちなかエリア	掛川城、二の丸美術館、大日本報徳社、竹の丸などの施設や建造物が集積する歴史文化地区を中心に、駅前商店街、掛川市役所、資生堂アートハウス、森林果樹公園・アトリエなど、掛川駅を起点とした中心市街地エリア。
五明エリア	眼下に美しい茶畑が広がる彗星発見の丘。※船井美佐氏作品を展示。

みんなのミュージアム

エリア	地域概要
まちなかエリア	江戸末期に建てられた掛川藩の御用商人山崎家住宅「松ヶ岡」をはじめ、駅前ストリートや空き店舗など、アートセレクション同様に掛川駅を起点とした中心市街地エリア。
原田・原泉エリア	天竜浜名湖鉄道やその沿線の景色、原野谷川流域に広がる茶畑などが魅力的な原田エリア。さくら咲く学校、しばちゃんカフェ・牧場、ならここ温泉&キャンプ場など、山里ならではの魅力を体験できる原泉エリア。
東山・日坂エリア	世界農業遺産に登録された茶草場農法が最も盛んな東山エリア。粟ヶ岳の茶文字、その眼下に広がる美しい茶園、阿波々神社周辺の森はパワースポットでも知られ、遠州七不思議のひとつ「無間の鐘」の舞台でもある。 旧東海道25番目の宿場町である日坂エリア。川坂屋、萬屋、藤文などの歴史的建造物が並ぶ街道の町並み、夜泣き石伝説の小夜の中山、事任八幡宮で知られる。
五明エリア	彗星発見の丘として有名な五明エリア。星空が美しい茶園として、月夜の茶摘み会、夏の星空鑑賞会などの行事や、『彗星』『願い星』『叶い星』という名の掛川深蒸し茶を販売するなど、五明ならではの星空を活かしたお茶を売り込んでいる。
大東エリア	北部には、小笠山、吉岡彌生記念館、東京女子医大大東キャンパス、文化会館シオーネ、高天神城跡などの歴史・文化的施設、南部には、大東温泉シートピア、大浜公園、遠州灘、潮騒橋などの観光施設を有するエリア。
横須賀エリア	遠州横須賀街道にそって、古い町なみが残る、かつての城下町の歴史と文化を感じさせるエリア。

アートセレクション

掛川まちなか 現代アート展

山口裕美総合プロデューサーが選んだ20名+1グループの現代アート作家が、掛川城、二の丸美術館、大日本報徳社、資生堂アートハウス、市役所、文化施設や商店街などを舞台に、絵画・インスタレーション・立体・軸・陶芸・映像などアート作品を創作・展示します。

会場はJR掛川駅周辺の市街地「まちなか」が中心。町歩きを楽しみながら、優れたアート作品、アートのある風景に出会うことができます。

【会場】 掛川城天守閣・御殿／大日本報徳社／竹の丸／二の丸美術館／資生堂アートハウス
We+138／掛川市立中央図書館／掛川森林果樹公園／掛川市役所など



アートセレクション参加作家(順不同)

大庭 大介 [絵画]

船井 美佐 [インスタレーション]

笛田 亜希 [絵画・インスタレーション]

川久保 ジョイ [写真・インスタレーション]

小川 佳夫 [絵画]

ミヤケ マイ [インスタレーション]

椿 昇 [インスタレーション]

平川 恒太 [絵画]

増田 将大 [絵画]

山口 典子 [絵画・インスタレーション]

濱口 健 [絵画]

薄久保 香 [絵画]

中村 ケンゴ [絵画・インスタレーション]

小林 孝亘 [絵画]

柳澤 紀子 [絵画]

竹廣 泰介 [陶芸]

石塚 隆則 [彫刻]

丹羽 勝次 [絵画]

丹羽 菜々 [インスタレーション]

長谷川 愛 [映像・インスタレーション]

グループ幻触 [特別展示]

※2017年4月19日現在（一部変更の可能性もあります）

大庭 大介 (おおば だいすけ) 絵画

展示会場：二の丸美術館



画家、1981年、静岡県袋井市土橋生まれ。現在、京都在住。
2007年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了。
京都造形芸術大学大学院芸術専攻准教授。
光の移ろいや鑑賞者の立ち位置によりイメージや色彩が変容しつづける絵画を特殊な偏光系のアクリル絵具をもちいて様々な道具やルールを設定した方法論をもとに多角的に展開させる。
主な個展に、2017年「大庭大介 個展」(SCAI THE BATHHOUSE・東京)
2012年「The Light Field」(SCAI THE BATHHOUSE・東京)
2011年「The Light Field」(大和日英基金・ロンドン)
2012年「大庭大介 個展」(SCAI THE BATHHOUSE・東京)
主なグループ展に、2011年「堂島リバービエンナーレ2011」(大阪)
2012年「超群島ライトオブサイエンス」(青森県立美術館・青森)
2013年「The Islands of the Day Before」(開渡美術館 (KdMoFA)・台北)
2014年「NATURES DUET:SELECTED WORKS BY JORGE MAYET & DAISUKE OHBA」
FAJAM FOUNDATION (ドバイ)
2015年「タグチヒロシ・アートコレクション パラダイムシフト てくてく
現代美術世界一周」(岐阜県立美術館・岐阜)
2016年「静岡県立美術館 新収蔵作品展」(静岡県立美術館・静岡)ほか多数。

船井 美佐 (ふない みさ) インスタレーション

展示会場：We + 138



現代美術作家
1974年 京都生まれ
2001年 筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了
2009 .2010年「VOCA 展 2009 現代絵画の展望-新しい平面の作家たち」上野の森美術館/東京
2014年「ワンダフルワールド」東京都現代美術館/東京
2015年「こどもと旅する美術館」美ヶ原高原美術館/長野 など。
「楽園と境界」をテーマに絵画空間について考察し、イメージと現実の間を行き来するような作品を制作しています。線と面によるウォールペインティングや、鏡によるインスタレーションを展開し、みるものが絵の中に入り込んでひとつになる作品を制作。近年はさらに子供が乗れる遊具形の大規模な絵画インスタレーションを展開。美術館やアートプロジェクトなどでの発表と共に、パブリックアートも数多く手がけています。想像と現実、2次元と3次元、自然と人工、過去と未来、、、それらの間を浮遊し、イメージの力で今を見つめる事でアートを通して新しいビジョンをつむぎます。
かけがわ茶エンナーレでは、茶畑に鏡の作品、we+138にすべり台型作品を制作し、茶畑と城下町をつなぐ新作を展開予定。

笛田 亜希 (ふえだ あき) インスタレーション

展示会場：大日本報徳社大講堂



美術家
1974年 東京都生まれ
1999年 東京芸術大学美術学部絵画科油画卒業
2001年 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画修了
生まれ育った東京武蔵野に愛着をもち、その土地に関連した数多くの作品を制作する。
取材を元に作品を作ることが多い。
作品は絵画（油彩、水墨、水彩）、立体等、様々な手法で、それらを用いたインスタレーションも行う。

参加アーティストプロフィール(順不同)



川久保 ジョイ(かわくぼ じょい) 写真・インスタレーション

展示会場：大日本報徳社 報徳図書館

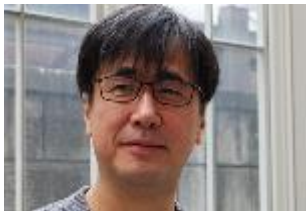


スペイン生まれ。ロンドン在住。2003年筑波大学人間学類卒業。写真の存在論を探求した平面作品や、物語性を巧みに用いた多メディア・インスタレーションで特異的な歴史を普遍的な問題へと媒介して行く作品群を製作する。また近年はエネルギーの問題や経済、科学、信仰など人間の営みに焦点を合わせ、時間や価値観の軸の中のかげ離れた点を提示することしばしば、観客を是と非の間へと誘う作品群を製作している。

近年の主な展覧会に「Stella Maris was a name I found in a dream」(Daiwa Anglo-Japanese Foundation、ロンドン、2016)「Fall」(第10回資生堂アートエッグ、資生堂ギャラリー、東京、2016)、「第19回岡本太郎現代芸術賞展」(川崎市岡本太郎美術館、川崎、2016)、「VOCA2015」(上野の森美術館、東京、2015、大原美術館賞受賞)、「To tell a (hi)story」(Husk gallery、ロンドン、2015)、「内臓感覚」(オル太x川久保ジョイ、金沢21世紀美術館、金沢、2013)等がある。平成27年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてイギリスにて研修。

小川 佳夫(おがわ よしお) 絵画

展示会場：中部電力ギャラリー



1962年 静岡県藤枝市生まれ。

1990年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻 修了

1995年 9月～2007年8月 アーティストビザを取得しパリ在住

2007年9月～ 東京在住

私が描きたいのは「記憶の底の光景」だ。それは、具体的な対象物の描写によるものではなく、色彩と形態を伴って現れた絵肌によって表現される、生の根源に潜むイメージだと考える。

甘味、温もり、湿り気、滑らかさ、匂い、官能性……。見る者の五感あるいは六感に訴えかけ、共鳴を起こすようなイメージを喚起させ、聖も性も包含する人間の「生」そのものの痕跡を表現したいと願っている。

人間が抱く静かな慈しみも、身をよじるような悲しみも、狂おしいほどの怒りも、弾ける歓喜も、全て含んでこそ美、であると思う。そういう美しさを描きたい。

個展 2005年 ギャラリー・アンドレ・マセ (パリ)

2009/10年 GALLERY TERASHITA (東京)

2014/15年 表参道画廊 + Musee F (東京)

2016年 Un petit garage (東京)

グループ展 1994年 「VOCA」上野の森美術館 (東京)

2004年 「カジャン・ビエンナーレ」オランジュリー、ギャラリー・バスカル・ヴァンネック (カジャン・フランス)

2007年 「パリへ-洋画家百年の夢」東京藝術大学美術館 (東京) 他巡回

2017年 ChangesFiveX ギャラリー・ピーゼンバッハ (ケルン)

コレクション 愛知県美術館

ミヤケ マイ(みやけ まい) インスタレーション

展示会場：資生堂アートハウス



日本の伝統的な美術や工芸の繊細さや奥深さに独自のエスプリを加え、過去と現在、未来までをシームレスにつなげながら物事の本質を問う作品を制作。媒体を問わない表現方法を用いて骨董、工芸、現代アート、デザインなど既存のジャンルを問わずに天衣無縫に制作発表。

大分県立美術館(OPAM)、水戸芸術館、Shanghai Duolun Museum of Modern-Art、POLA美術館、森美術館、世田谷美術館での展示及びワークショップのほか、村越画廊、壺中居、Bunkamuraギャラリーなどで個展多数。銀座メゾンエルメス、慶應大日吉キャンパス来往舎ギャラリーなど、企業や大学でもサイトスペシフィックなインスタレーションを手がける。

2008年パリ国立美術大学大学院に留学。『膜迷路』(羽鳥書店/2012年)など3冊の作品集がある。2017年3月末に4冊目の作品集『蝙蝠』を刊行予定。

参加アーティストプロフィール(順不同)



椿 昇 (つばきのぼる) インスタレーション

展示会場：掛川市役所



京都市立芸術大学美術専攻科修了。

1989年 アゲインストネーチャーに「Fresh gasoline」を出品、展覧会のタイトルを生み、その後の日本のコンテンポラリーアートの方向性に多大な影響をもたらした。

1993年 ベネチア・ビエンナーレに出品。

2001年 横浜トリエンナーレで、巨大なバットのバルーン《インセクト・ワールド-飛蝗 (バット)》を発表。

2003年 水戸芸術館にて個展。

2009年 京都国立近代美術館にて個展。

2012年 霧島アートの森 (鹿児島) にて個展。

一貫してユーモアあふれる巨大な玩具を主にバルーンを用い、現代社会の抱える危機的な状況への警告を内包させている。また、地域再生のアートプロジェクトのディレクターも努め、瀬戸内国際芸術祭では、2013年「醬+坂手プロジェクト」、2016年「小豆島未来プロジェクト」のディレクターとして大きな経済的成功をもたらした。

また、地域再生のアートプロジェクトのディレクターも努め、瀬戸内国際芸術祭では、2013年「醬+坂手プロジェクト」、2016年「小豆島未来プロジェクト」のディレクターとして大きな経済的成功をもたらした。

長年にわたってアート教育にも携わり、京都造形芸術大学美術工芸学科の卒業をアートフェア化、内需マーケット育成のためにアルトテックを創設。アートを持続可能社会実現のイノベーションツールと位置づけている。

平川 恒太(ひらかわ こうた) 絵画

展示会場：市立中央図書館



1987年 高知県生まれ。東京芸術大学修士課程修了、画家、アーティスト

絵画という人類の起源から続く営みは、時に描く意味と共に生きる意味を画家に突きつける。無限にも思えるキャンパスの空間に崇高さを感じながら更なる世界を描き出す。画家が世界と向き合う時そこにはいつも崇高な対話があるのだ。事物の本質を画家の目を通して捉えることで絵画という永い歴史と人類史を見つめる。

主な受賞歴にアートアワードトーキョー丸の内2013三菱地所賞、損保ジャパン美術賞展FACE2013 審査員特別賞などがある。

増田 将大(ますだ まさひろ) 絵画

展示会場：掛川城御殿



1991年 静岡県島田市出身

2017年 東京藝術大学 大学院美術研究科 博士後期課程 所属

東京藝術大学 大学院美術研究科 油画・技法材料研究室 修了

2014年 東京藝術大学 美術学部 絵画科油画専攻 卒業

〔個展〕2013年「狭間」、TURNER GALLERY・東京

2012年「masuda展」、TURNER GALLERY・東京

2010年「増田 将大 個展」、オーレ藤枝・静岡

〔グループ展〕

2016年「第65回 東京藝術大学卒業・修了作品展」東京藝術大学・東京

「CAF選抜展」HOTEL ANTEROOM KYOTO・京都

「第2回 PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ2016」京都市美術館・京都

「ULTRA×ANTEROOM exhibition 2016」HOTEL ANTEROOM KYOTO・京都

「物質としての絵画 東京藝術大学油画技法材料研究室×愛知県立芸術大学白河研究室」鮎百堂画廊・東京

2014年「第62回 東京藝術大学卒業・修了作品展」東京藝術大学・東京

「消失点」Sun Art Gallery・上海

「SHORT SHORT-油画技法材料研究室修士一年展示-」東京藝術大学 大学会館・東京

「CAF ART AWARD 2014」TABLOID GALLERY・東京

「TERADA ART AWARD 2014 入選者展」寺田倉庫 T-Art Gallery・東京

「GOLDEN COMPETITION 2014 入賞者展」ART COURT Gallery・大阪

2013年「TURNER AWARD 2012」TURNER GALLERY・東京

2012年「30組の二人展」東京藝術大学・東京

「TURNER AWARD 2011」TURNER GALLERY・東京

〔受賞歴〕

2015年 TERADA ART AWARD 入選

2014年 CAF ART AWARD 大賞

TERADA ART AWARD 入選

GOLDEN COMPETITION 大賞

2012年 TURNER AWARD 大賞

2011年 TURNER AWARD 未来賞

〔パブリックコレクション〕

2014年 公益財団法人 現代芸術振興財団 前澤友作コレクション

山口 典子 (やまぐち のりこ) 絵画・インスタレーション

展示会場：竹の丸



現代美術家／3Dスカルプター。

2007年京都市立芸術大学大学院絵画コース油画修了。

京都造形芸術大学非常勤講師を経て2013年より現在K'sデザインラボで3Dスカルプターとして所属。

皮膚感覚を呼び起こす作品を制作している。

使用画材や技術等は固定していない。



濱口 健 (はまぐち けん) 絵画

展示会場：掛川城御殿



1997年に多摩美術大学 日本画専攻を卒業。

イラストレーションを中心に活動しながら、2008年の個展で美術作家としてもデビュー。「バカバかしい絵」とか「しょうもない絵」に一生をかけてどれだけ力を注ぐことができるのか？、が、作家としての一貫したテーマ。

- 〔個展〕
- 2008年「黒、経文、その他」高橋コレクション神楽坂／東京
 - 2011年「Selected Old Stuff Vol.1」MEGUMI OGITA GALLERY／東京
 - 2014年「Salute to the Uni-POSCA!」Galeria de Muerte／東京
 - 「粗製濫造」MEGUMI OGITA GALLERY Showcase／東京
 - 2015年「Salute to the Uni-POSCA! @Osaka」PULP／大阪
 - 2016年「招かれざる奴ら」PULP／大阪
 - 「現代人の座標軸」WISH LESS／東京

- 〔グループ展〕
- 2001年「VERSUS」渋谷PARCO／Depot.／東京
 - 2014年「消失点／Vanishing Point」Shun Art Gallery／上海
 - 2015年「I'm house sitting」un petit GARAGE／東京
 - 2016年「DRAW4」The Blank Gallery／東京
 - 2017年「UMA exhibition」excube／大阪



薄久保 香 (うすくぼ かおる) 絵画

展示会場：掛川城御殿



栃木県生まれ

2004年 東京造形大学造形学部美術科絵画専攻卒業

2010年 東京藝術大学大学院美術研究科博士課程美術専攻修了 博士号取得

2016年「Kaoru Usukubo, Hannes Beckmann」LOOCK Galerie (ベルリン)

2013年「crystal moments」個展LOOCK(ベルリン)

2011年「輝くもの天より墜ち」taimatz(東京)

2011年「横浜トリエンナーレ2011OUR MAGIC HOUR」横浜美術館 (横浜)

2007年「Wandering season」個展TARO NASU (東京)

パブリックコレクション：帝京大学 (山梨) 公益財団法人佐藤国際文化育英財団 (東京) など

絵画とは、我々の世界に在る可視なもの、不可視なもの、または私たちの身体行為によって呼び起こされた思考運動そのものを、ある約束に則り「見えるようにしたもの」であると考えられます。近年の私の取り組みとは、ふだん視覚的には認識出来ない「意識/時間」を絵画の姿に翻訳し「見えるようにする」ことかもしれません。



参加アーティストプロフィール(順不同)



中村 ケンゴ (なかむら けんご) 絵画・インスタレーション

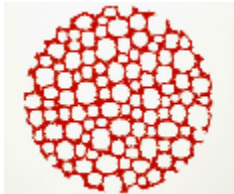
展示会場：イシバシヤ



Eメールで使われる顔文字、ワンルームマンションの間取り図、マンガの吹き出しやキャラクターのシルエットなど、現代社会を表象するモチーフから、美術史上のさまざまなイメージまでも用いたユニークな絵画を制作。日本画の技法で描かれるこれらの作品は、近代になって生まれた「日本画」をはじめとする「日本の美術」のドメスティックな概念を相対化する仕事でもある。

また、絵画制作だけでなく、他ジャンルのクリエイターとのコラボレーションのほか、展覧会、シンポジウムなど様々なアートプロジェクトの企画運営にもあたる。国内外の展覧会、アートフェアに多数出品。

2015年に、掛川市二の丸美術館にて個展「モダン・ジャパニーズ・ジャパニーズ=スタイル・ペインティング 1994-2014」を開催。多摩美術大学大学院修了。



小林 孝亘(こばやし たかのぶ) 絵画

展示会場：掛川城天守閣



1960年1月15日 東京生まれ

1986年 愛知県立芸術大学美術学部油画科卒業

1986年より作品を発表。当初から一貫して具体的なものを題材に作品を制作。1996年文化庁芸術家在外研修員としてバンコクに滞在。2002年『小林孝亘作品集-ひかりのあるところへ』(日本経済新聞社)刊行。2014年『小林孝亘-私たちが夢見る夢』(青幻舎)刊行。2016年『ふつうの暮らし、あたりまえの絵-小林孝亘の制作ノート』(求龍堂)刊行。

主な展覧会に2000年「近作展 23」国立国際美術館(大阪)、2004年「終わらない夏」目黒区美術館、2006年「ものところ」西村画廊(東京)、2014年「私たちが夢見る夢」横須賀美術館などの個展のほか、2003年「MOTアニュアル2003 おだやかな日々」東京都現代美術館、2006年「愉しき家」愛知県美術館、2009年「眼を閉じて-“見ること”の現在」茨城県立近代美術館、2010年「絵画の庭-ゼロ年代日本の地平から」国立国際美術館、2015年「画家の詩、詩人の絵」平塚市美術館他巡回、2016年「エック ホーム 現代の人間像を見よ」国立国際美術館(大阪)などに参加。

作品は国際交流基金、シラパコン大学、バンコク大学、広島市現代美術館、国立国際美術館、栃木県立美術館、群馬県立館林美術館、タイムラー・クライスラー・ファウンデーション・イン・ジャパン、北海道立釧路芸術館、水戸芸術館、東京都現代美術館、大原美術館、高松市美術館、ヴァンジ彫刻庭園美術館、東京ステーションギャラリー、愛知県立芸術大学等に収蔵されている



柳澤 紀子(やなぎさわ のりこ) 絵画

展示会場：大日本報徳社 仰徳記念館



美術家・版画家

1940年 静岡県浜松市に生まれる
1965年 東京芸術大学大学院油画研究科油画専攻修了
1971-75年 ニューヨークのプリントメーカー・ワークショップにて制作
1992年 文化庁派遣芸術家在外研修員としてロンドンに滞在
2003-11年 武蔵野美術大学造形学部油画学科版画研究室教授

【主な個展】

1976年 養清堂画廊(東京、同)
1983,87,90,94,96,98,2001,03,06,08,11,14
1985年 空間美術館(ソウル)
1987年 ギャラリー・ティファレンサー(リスボン)
1989年 ワールドバンク・アート・ソサエティ(ワシントン)
1990年 ギャラリー・イルポネ(フィレンツェ)
1997年 プルガリア・ナショナルギャラリー(シリア、国際交流基金後援)
1998年 イスラエル・テイクティン日本美術館(ハイファアー)
1999年 ルーマニア国立美術館(ブカレスト)
2000年 掛川市二の丸美術館(静岡)
2001年 サンパウロ州立博物館(サンパウロ、国際交流基金後援)、ヒルサイドファーム(東京)
2002年 城西国際大学水田美術館(千葉)
2005年 中京大学アートギャラリーC-スーク(名古屋)
2008年 酒田市美術館(山形)
2009年 静岡県立美術館(静岡)、イスラエル・テイクティン日本美術館(ハイファアー)
2010年 キトアレス(東京)、武蔵野美術大学美術館・図書館(東京)
2012年 ベンガル・アートラウンジ(ঢাকা、バングラデシュ)
2013年 浜松市美術館、平野美術館(静岡)、サンレン・ポルト(リスボン)巡回展
2014年 鎌倉画廊(神奈川)
2016年 養清堂画廊(東京)

【主な受賞】

1964年《聖》(Lips)で第32回日本版画協会賞(社団法人日本版画協会)
1991年 静岡県文化奨励賞(静岡県教育委員会)
1999年《水邊の庭99》で東京ステーションギャラリー賞(東日本版画財団)
2001年《水邊の庭V》で第10回山口源大賞(沼津市)
2010年 Shilpacharya Zainul Abedin Award 2010(ঢাকা大学)

【主なブリックコレクション】

東京藝術大学大学美術館 埼玉県立近代美術館 宮崎県立美術館 公益財団法人東日本鉄道文化財団 茨城県近代美術館 静岡県立美術館 公益財団法人池田20世紀美術館 掛川市二の丸美術館 黒部市美術館 静岡市立中央図書館 沼津市庄司美術館 浜松市美術館 浜松市楽器博物館 町田市立国際版画美術館 松本市美術館 酒田市美術館 新潟県十日町市 城西国際大学水田美術館 常葉美術館 武蔵野美術大学美術館・図書館 公益財団法人平野美術館 テイクティン日本美術館(イスラエル) サークレーギャラリー(スミニアン アムカ) サンフランシスコ市立美術館(アメリカ) 米国議会図書館 バングラデシュ・シルパカア카데미 ルガリアナショナルギャラリー ルーマニア国立美術館



参加アーティストプロフィール(順不同)



竹廣 泰介 (たけひろ たいすけ) 陶芸

展示会場：二の丸美術館



1950年 広島に生まれる
1982年 神奈川にて渡邊一神氏に師事する
1984年 信楽にて小川顛三氏に師事する
1987年 静岡県掛川市に築窯独立
1990年 穴窯による信楽を中心とする独自の焼きメ陶の制作開始以後展覧会を各地で開催して現在にいたる
1996年から 花芸 安達流 安達瞳子氏の花器制作
遠い時代の壺に着かれひたすら壺を作ってきました。壺は主に信楽というただ焼き締めるだけの素朴な手法です。自然に近く遙かな世界を目指しています。
やさしさに包まれた展示になればと願っています。

〔個展〕
銀座/松屋銀座 心齋橋/大丸
銀座/黒田陶苑 大阪/堂島
銀座/安田美術 広島/SOGO
青山/和田 静岡/松坂屋
青山/西福 静岡/川村文化
青山/新生堂 振興財団
函館/村岡 浜松/双鶴
鎌倉/円覚寺 他多数
鎌倉/丹

石塚 隆則(いしづか たかのり) 彫刻

展示会場：掛川森林果樹公園



見えない「もの」や「こと」を可愛い動物キャラクターにしてドローイングや絵画、彫刻そしてインスタレーションなどで表現。コミカルで奇矯な動物達が織り成す作風が国内外で高く評価されている。

〔近年の個展〕

2017年「ねむりと死」Jun petit GARAGE (東京)
2015年「けものアパートメント」ヨコハマアパートメント (横浜)
2014年「totem」Inca | nichido contemporary art (東京)
2011年「石塚隆則展」TRAUMARIS (東京)
2010年「夫婦岩」hpgrp Window Gallery (東京)
2009年「霊獣」Inca | nichido contemporary art (東京)

〔コレクション〕

東京都現代美術館

丹羽 勝次(にわ かつじ) 絵画

展示会場：竹の丸1階



1931年 旧・磐田郡三川村 (現・袋井市) 生まれ
1956年 静岡大学 (美術) 卒業
1956~65年 新製作協会展連続入選 個展 (静岡、札幌、浜松、藤枝など)
1966~71年 グループ「幻触」の創立に参加し、切抜きの「箱」のシリーズを出品
1967年「シェル美術賞展」入賞
1968年「トリックス アンド ヴィジョン」展 (東京画廊)・毎日現代美術展
1969年「今日の美術静岡」展 (静岡県民会館)
1989年「アバウトヘイト否! 国際美術展」静岡県代表委員
2001~15年 遠州横須賀街道ちっちゃな文化展第3回展より連続出品
2005年「幻触」展 (鎌倉画廊)「もの派一再考」展 (大阪国立国際美術館)
2007~14年「静岡アートドキュメント」(静岡市青葉公園など)
2011年「日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ」に収録
2012年 個展 (静岡金座ボタニカ)
2013年 個展 (清水フェルケル博物館)
2014年「グループ幻触」と石子順道展 (静岡県立美術館)
2014年 幻触シリーズ丹羽勝次「NOW」(静岡金座ボタニカ)
2015年 個展 昭和の「違和」: 昭和の「今」(静岡金座ボタニカ)
2015年 浜松アートルネッサンス2015 (浜松城公園)
2016年 静岡×東京 富士山展 (静岡金座ボタニカ)
2016年 Ryu×Botanica 野生の視線 (静岡金座ボタニカ)

〔作品収蔵〕

静岡県立美術館・静岡市中央公民館・鎌倉画廊

丹羽 菜々(にわ なな) インスタレーション

展示会場：We+138ほか



美術作家。

静岡市出身。静岡大学卒業。三島市在住。

在学時より「増殖する」「拡がる」「endless」をキーワードに、平面を中心に創作を行う。静岡県内、東京、札幌などで個展、グループ展を開催。現在は『here and there』のシリーズと、インスタレーションによる『色の帯』のシリーズを並行して制作している。

掛川市では2003年から『遠州横須賀街道ちっちゃな文化展』に継続して参加。初期には室内での展示が主であったが、近年は屋外にも展示の空間を拡げている。一昨年には横須賀街道の街並みとのコラボレーションをより強く意識し、「色の帯」を用いた『風の横須賀街道』を演出。今年も引き続き参加を予定している。

三島市ではギャラリーと作家の合同企画によるグループ展に参加。昨年は同グループで商店街をアートフラッグで埋め尽くす『GYOWTEN STREET JACK』を開催。また同時に商店街の店舗ビルの壁面に『色の帯・風の交差点』を展示した。



長谷川 愛(はせがわ あい) 映像・インスタレーション

展示会場：大日本報徳者 仰徳記念館
掛川城御殿



アーティスト、デザイナー、東京大学 特任研究員。掛川市出身。

バイオアートやスペキュラティブ・デザイン、デザイン・フィクション等の手法によって、テクノロジーと人がかかわる問題にコンセプトを置いた作品が多い。

岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー（通称 IAMAS）にてメディアアートとアニメーションを勉強した後ロンドンへ。数年間Haque Design+ Researchで公共スペースでのインタラクティブアート等の研究開発に関わる。

2012年英国Royal College of Art, Design InteractionsにてMA修士取得。
2014年から2016年秋までMIT Media Lab, Design Fiction Groupにて研究員、
2016年MS修士取得。2017年4月から東京大学 特任研究員。(Im)possible
Baby, Case 01: Asako & Morigaが第19回文化庁メディア芸術祭アート部門にて
優秀賞受賞。森美術館、アルスエレクトロニカ等、国内外で展示を行う。



グループ幻触 [特別展示]

展示会場：竹ノ丸

「グループ幻触」のアーティストの中から

①飯田昭二さん ②鈴木慶則さん ③長嶋泰典を各1点ずつ展示予定
静岡県静岡市のコレクターの方から作品をお借りしての展示となる。

みんなのミュージアム

掛川まるごとアートプロジェクト

市民有志・市民団体・地元ゆかりのアーティスト・地域ディレクターが中心となり、掛川市全域を舞台に展開する地域発のアートプロジェクトです。

地域の特色を活かした様々なアートプログラムを実施し、お茶のまち掛川の魅力を再発見していただきます。

【会場】 掛川市全域
原田・原泉エリア／東山・日坂エリア／五明エリア／まちなかエリア／横須賀エリア／大東エリア



写真はイメージです。

第3次エントリー募集中(2017年5月8日締切)

1 対象プログラム

- ① 「アート」と「茶」に関するもので、掛川市内で実施されるもの。
- ② 不特定多数の集客、参加が見込まれるもの。
- ③ 政治、宗教などに関する活動や、公の秩序または、善良の風俗に反するものでないこと。

2 応募条件

- ① 「掛川が好き」な人（プロ・アマ・国籍問わず）
- ② かけがわ茶エンナーレ事業内容に賛同いただけること。
- ③ かけがわ茶エンナーレと一緒に盛り上げて、楽しんでくれること。
- ④ 採択された場合、事業を滞りなく実行し、当事業運営スケジュールに沿ってプログラムを進めることができること。
- ⑤ 作品の展示等の場合は、発表、未発表は問いません。

国内有数の茶産地であり、 豊かな自然とはるかな歴史が息づくまち 掛川

「かけがわ茶エンナーレ」では、全国から多くの方々をお迎えします。

掛川市は、山・野・海の変化に富んだ自然に恵まれたまちです。粟ヶ岳・小笠山に続く北部の丘陵地を中心として、市の全域に茶畑が点在し、独特の美しい景観を創りだしています。南部は遠州灘を臨み、緑の平野が広がっています。

また、掛川市は、はるかな歴史が息づくまちでもあります。東海道の掛川宿・日坂宿、横須賀の城下町、二宮尊徳の報徳思想を広める大日本報徳社、本格木造復元の掛川城、500年の伝統を持つ掛川祭、横須賀祭など、先人から受け継がれてきた文化を守り続けています。

「かけがわ茶エンナーレ」を機会に、アートファンはもちろん、全国から多くの来場者をお迎えし、「喫茶去」の精神で、多くの掛川ファンをつくってまいります。



アクセス

◎JR東海道新幹線の場合



◎JR東海道線の場合



◎お車の場合





KAKEGAWA
CHAENNALE

本件についてのお問い合わせは

かけがわ茶エンナーレ実行委員会 事務局(掛川市文化振興課)

〒436-8650 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1

TEL.0537-21-1126 FAX.0537-21-1165

E-mail. chaennale@city.kakegawa.shizuoka.jp

www.chaennale.jp/